

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 5 日現在

機関番号：32660

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520313

研究課題名(和文) 英国ルネサンス期ペジェントリーと商業劇団の興隆 ―劇場舞台の衣装・演出への影響―

研究課題名(英文) Production of Pageantry and Its Influence on Theatrical Stage in the Early Modern England

研究代表者

小林 酉子 (Kobayashi, Yuko)

東京理科大学・理工学部・教授

研究者番号：60277283

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：1570年代からロンドンでは商業劇場が次々と建設され、ルネサンス演劇最盛期を迎えた。その当時、商業劇団は市井の劇場で公演するだけでなく、宮廷や貴族の館、あるいは市の祝祭で役を演じてもいた。本研究は、商業劇団が深く関わったpageantry(野外式典)を研究対象とする。これは royal pageantry(入市式や巡幸)とcivic pageantry(市長就任式等)に大きく分けられる。それぞれの記録を基にpageantry衣装演出の具体像を追って、その意匠が商業劇場舞台に与えた影響を明らかにし、エリザベス朝の商業劇場でどのような衣装演出が用いられたかを検証した。

研究成果の概要(英文)：The research focused on royal and civic pageantry in the Tudor period, including royal entries, processions, progresses, and the Lord Mayor's Show. Professional players were hired and acted in these occasions, although they usually played in a commercial theater constructed in the suburbs of London in the late sixteenth century. A group of players patronized by a noble such as the Earl of Leicester welcomed the Queen who visited his country manor in progress. The players were disguised as mythical figures or classical characters for her entertainment. The productions and costumes for pageantry later influenced on the stage of commercial theater in London. The research revealed how the company devised their costumes for a play with classical background and what they wore on stage in the early modern England.

研究分野：英国ルネサンス演劇

キーワード：英国ルネサンス演劇 舞台衣装 ペジェントリー 宮廷饗宴 巡幸 エリザベス朝 チューダー朝

1. 研究開始当初の背景

エリザベス朝はシェイクスピアやベン・ジョンソン等の劇作家を輩出した英国演劇史上、画期的な一時代であった。この時代の演劇に関しては戯曲本文を始め、劇場建築、舞台装置、劇団運営、劇作家などの様々なテーマで研究が行われてきたが、俳優がどのような衣装で舞台に立っていたのか、誰がどのようにして衣装の調達を行っていたのかといった舞台衣装に関する点は、ほとんど解明されていない。世界各地で毎日のように上演されているシェイクスピア作品でさえ、執筆当時の舞台衣装については不明な部分が数多くある。

英国ルネサンス演劇に関するスケッチやデザイン等の絵画資料は極めて少ない。文献一次資料となる宮廷饗宴局在庫目録や会計簿、商業劇団会計簿などでも、衣装については購入や制作に対する支払い記録が主で、色や素材、デザインがすべて明記されている訳ではない。

15世紀後半から16世紀前半は、未だ商業劇団は存在せず、演劇は主に王侯貴族が抱える少数の俳優、または祝祭等で仮設舞台に立つ市井の素人たちによって行なわれていた。宮廷で演じていた俳優たちはやがて宮廷外へ出て、地方の貴族の館や市のホール等で芝居を演じてみせるようになる。その中から、入場料を取ることによって生活する職業俳優が生まれ、彼らは1570年代以降、ロンドン郊外に常打ち小屋を持つようになった。その後、宮廷で度々上演する劇団は、払い下げ衣装や装飾品を民間劇場で使用するほか、入場料収益によって経営が安定すると、自分たちで舞台衣装を誂えることも可能になった。上のような理由から、宮廷饗宴衣装は、その後の商業演劇衣装のいわば土台となったと考えることができる。

また市の有力ギルドが主体となった市長就任式では、野外パレードに職業俳優を雇い

入れることも行われ、その際の演出や衣装も商業演劇に反映されたと考えられる。

このように宮廷および市中での祝典は商業演劇に結びつき、ルネサンス演劇の衣装演出の実態解明に手がかりを与えるものといえる。

2. 研究の目的

筆者は、英国ルネサンス演劇がどのような衣装演出で上演されていたかを大きな研究テーマとするが、上述の通り、図像資料は殆ど無く、戯曲本文から衣装が推測できる例も限られている。しかし衣装の視覚化復元を可能にする資料情報を時系列で抽出していくことによって、舞台衣装の具体像が浮かび上がってくる。民間劇団がどのような衣装で上演し、どのように衣装を調達していたかを解明する手がかりになるものは、上述のように王室饗宴や宮廷外の祝典である。当時の野外式典はpageantryと呼ばれ、仮設舞台での寸劇やパレードが行われた。pageantryは、王侯入市式や貴族城館等への巡幸のroyal pageantryと民間の夏至祭や市長就任式のcivic pageantryに大きく分けられる。筆者はこれまでの研究で、宮廷饗宴を中心に舞台衣装の視覚化復元を行ってきたが、本研究ではroyal pageantryとcivic pageantryの観点から、衣装調達とその後の流れ(制作、作り替え、売却)を検証し、英国ルネサンス商業演劇舞台での衣装演出と上演の実態を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

ロンドンでは1570年代後半から商業劇場が郊外に建設され、16世紀末から17世紀初頭にかけて演劇最盛期を迎える。本研究は、王侯貴族のお抱え劇団が活動を始めたチューダー朝初期から末期までを対象に、王室饗宴や入市式、巡幸時の衣装演出を一次資料を基に検証する方法によって、英国ルネサンス盛期の商業演劇舞台を再現しようとするも

のである。

royal pageantry、civic pageantryには職業俳優が係わっていたことは記録から明らかであり、野外式典での衣装演出は商業劇団の舞台に反映された可能性が高い。王室饗宴、royal pageantry、civic pageantryで使用された衣装を一次資料から抽出することによって、商業劇場舞台衣装がより具体的に視覚化できるようになる。

王室饗宴を担当する部署である饗宴局は、企画・演出、衣装や道具製作・調達を担っており、会計簿や在庫目録から饗宴衣装を再現できる。また同時代の年代記作者や市民の日記に、饗宴や入市式パレードの衣装演出が記されることもあり、これらの記録からも当時の祝典・饗宴衣装の実相を明らかにすることができる。

饗宴局で最も詳細な記録が作成されたのはエドワード6世代、メアリー代、エリザベス代初期である。饗宴衣装製作では新調の他に、在庫品を作り替える再利用も盛んであった。作り替えを経て古くなったものや傷んで再利用できないものは、給与の現物支給として下級職員に払い下げられたり、演者に祝儀として与えられたりした。衣装を受け取った者は、それらを売却したと考えられるが、売却先は古着商や民間劇団であった。

また、エリザベス女王は即位後から晩年まで夏の間の地方巡幸を慣例としていたが、受け入れに当たる貴族城館や地方都市では演劇仕立ての饗宴を行っている。貴族は職業作家や詩人を雇って演出に当たらせ、その記録は後日、パンフレットとして刊行されたり、日記や私信として残るものもある。これらの資料から、どのような演出でどのような衣装が用いられたかを検証した。饗宴には職業俳優が演者として加わったこともあり、その演出や衣装は後に商業劇場舞台に反映されたと考えられる。

ロンドンでは商業劇団が次々と結成され、

それに伴って劇場の数も増えていった。上演される芝居の増加とともに必要な舞台衣装も増えるが、これは俳優自身の衣装を利用する他、多くの中古衣料を購入することで対応していたとみられる。劇場ローズ座の劇場主であり、海軍大臣一座の実質的な経営者であった Philip Henslowe は『日記』の中で、劇団用に中古衣類を購入し、舞台衣装を新調した記録を残している。1593年作成と見られる劇団持ち衣装リストには、「トルコ近衛兵とたいまつ持ちの衣装」「ベネチア高官の衣装」が挙げられているが、1560年の饗宴局在庫目録にトルコ近衛兵とベネチア高官衣装の記載があり、宮廷饗宴衣装が劇団に流れた可能性が高い。ローズ座で上演された近東やベネチアが舞台の芝居では、これらの衣装が活用されたと考えられる。

上のような文献資料、画像資料によって、王室饗宴や pageantry 衣装が、民間劇団に流れた可能性をさぐり、商業劇場舞台でどのような衣装が用いられたかを検証した。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

饗宴局在庫目録に記されるものは、布地・衣装の他に、飾り馬衣、掛け布、祭服、小道具類などであるが、衣装・装飾品の一部には「使用可能・不可、在庫として記載・削除、祝儀」等の附記がある。作り替えを経たり、経年変化等で傷んだものは、饗宴演者に下渡されるか、低価格で劇団等へ売却された。従って宮廷饗宴衣装の一部は、民間劇団へ流れ、商業演劇で利用されたと考えられる。

エリザベス朝では、宮廷饗宴局が企画演出を行うマスク(仮面仮装劇)は次第に減り、治世末期では商業劇団を宮廷に招いて公演させる回数が増加している。饗宴局には衣装製作の記録がないことから、劇団が手持ち衣装を持ち込んだ可能性が高い。商業劇団は16世紀末以降、経営が安定し、自前で舞台衣装を新調する経済力を有するようになってい

た。

royal entry(入市式)は、長く不在であった王の帰還や王家の婚礼、戴冠等の際に、市長の出迎えを受けて市城壁内に入り、宮殿へと向かう公式儀式である。入市式では街の要所に仮説舞台 pageant が設置され、スピーチや寸劇が演じられた。聖書中の人物や聖人、歴史上の古人、「節制」「寛容」など道徳的美徳を擬人化した人物、巨人や野人などが登場した。

1580年代から1590年代初期の商業演劇舞台では、マーロウの『フォースタス博士』のように善天使や悪天使、悪魔、美徳などが登場し、pageantry 同様の衣装演出がなされたと考えられる。

エリザベス女王は夏の間、地方各地へ巡幸したが、入市式や巡幸時の饗応では1570年代から古典古代のテーマが盛んに取り入れられ、神話の神々が pageant に登場した。1575年7月、寵臣レスター伯爵の居城ケニルワースへの巡幸時には、城全体を舞台とした演劇ショーともいえる饗応が行われた。池に人口島が造られ、神話上の人物やローマ時代の英雄などに扮した演者が登場したほか、夜は室内でマスク(仮装仮面劇)が行われたが、これらの役を担ったのはレスター伯爵お抱え一座であった。彼らは1580年代に商業劇団を結成する。

1590年代以降、ロンドンの商業劇場では『ジュリアス・シーザー』『アントニ - とクレオパトラ』など、古典古代を舞台とする劇が多く上演されている。巡幸時の祝宴での衣装演出が商業劇場舞台に反映された可能性は高い。

女王巡幸は地方都市にも及び、市は歓迎スピーチや寸劇仕立ての祝典を催した。伝統的なモリスダンサーや野人のほか、ここでもマーキュリー、アテナ、ケレス(農女神)などの神々が登場した記録がある。1578年、ノリッジ市で歓迎スピーチを行ったマーキュリ

ーは、青いサテンの服にとんがり帽子、翼のついた靴など、ヘッドピースや装飾品で古典古代風に装っていた。このような意匠は、Sir Henry Unton 肖像画(1596年頃)の背景に描かれた自邸マスクの演者マーキュリーと月の女神ダイアナ、ニンフたちの装いにも見えてとれる。演者たちは当代風衣装であるが、ヘッドピースや持ち物、背中についた翼等で人物像を表している。

当時の商業劇団はレパトリー制で日替わりの演目を上演しており、個々の芝居に特別仕立ての衣装を用意することは難しかった。このため、上述のような小道具や装飾品の利用が商業劇場でも取り入れられた可能性が高い。ローマ将軍が主人公のシェイクスピア作『タイタス・アンドロニカス』舞台スケッチ(1595年)でも、古典古代風の衣装・小道具などを部分的に取り入れながら、劇の時代性を表現している。

(2)インパクトと今後の展望

国内、国外ともに英国ルネサンス演劇衣装の具体像を再現しようとする研究は殆ど行われてこなかったが、宮廷饗宴衣装の作り替え歴と処分、商業劇場での古典古代劇衣装演出など、本研究で明らかになった点が多い。研究成果については論文の他、国際学会で発表を行ったが、Renaissance Society of America よりシェイクスピア劇衣装に関する研究書 *Shakespeare and Costume* の書評執筆依頼があり、学会誌掲載(2016年刊行)が決定した。

本研究はチューダー朝初期からエリザベス代末までの演劇を対象に、制作・作り替え・売却等の流れに沿って舞台衣装の具体像を追い、劇作品上演時の演出を明らかにした。今後はスチュアート朝演劇について研究を行い、英国ルネサンス演劇衣装演出を通史的に解明する計画である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 12 件)

小林酉子、チューダー朝における古典古代の演劇衣装、国際服飾学会誌、査読有、48巻、2015、pp.15-29. ISSN 0917-6551.

<http://iaoc.world.coocan.jp/>

Yuko Kobayashi、Classical Costumes in the Early Modern England、Journal of the International Association of Costume、査読有、Vol.48、2015、pp.30-36.

ISSN 0917-6551

<http://iaoc.world.coocan.jp/>

小林酉子、エドワード6世、メアリー女王の宮廷饗宴(2) Lord of Misrule からメアリー女王の饗宴まで、東京理科大学紀要(教養篇)査読有、2015、47号 pp.17-37. ISSN 0286-7915

小林酉子、エリザベス朝前期における宮廷饗宴衣装作り替えの事例研究、第26回国際服飾学会プロシーディング、査読有、2014、p.159.

Yuko Kobayashi、Translation of Masking Costumes in the Early Elizabethan Period、The 26th International Congress : Proceedings、査読有、2014、p.158.

小林酉子、エドワード6世、メアリー女王の宮廷饗宴(1) エドワード即位祝典から Lord of Misrule パレードまで、東京理科大学紀要(教養篇)査読有、46号、2014、pp.157-173. ISSN 0286-7915

Yuko Kobayashi、Image of Classical Characters and Its Transition in the Early Modern England、The Renaissance Society of America : Annual Meeting Book、査読有、2014、p.225.

Yuko Kobayashi、Representation of Classical Characters on the Elizabethan Stage、The 25th International Costume Congress : Proceedings、査読有、2012、p.113.

小林酉子、英国ルネサンス演劇における劇作上の変換と悪役・道化衣装、国際服飾学会誌、査読有、2012、42巻、pp.31-43.

ISSN 0917-6551

<http://iaoc.world.coocan.jp/>

Yuko Kobayashi、Vices and Fools on Stage in Early Modern England Changes in Their Role and Apparel in Relation to Dramaturgy、Journal of the International Association of Costume、査読有、2012、Vol.42、pp.44-50. ISSN 0917-6551

<http://iaoc.world.coocan.jp/>

Yuko Kobayashi、Alteration of Garments for Court Revels in the Early Elizabethan Period、Renaissance Society of America Annual Meeting Book、査読有、2012、p.472.

12 小林酉子、南蛮文化・舶載織物の浸透と影響(2) オランダと英国の織物交易、東京理科大学紀要(教養篇)査読有、44号、2012、pp.139-156. ISSN 0286-7915

〔学会発表〕(計 3 件)

Yuko Kobayashi、Translation of Masking Costumes in the Early Elizabethan Period、The 26th International Congress、2014年8月20日、学習院女子大(東京)

Yuko Kobayashi、Image of Classical Characters and Its Transition in the Early Modern England、The Renaissance Society of America、2014年3月29日、New York

Yuko Kobayashi、Representation of Classical Characters on the Elizabethan Stage、The 25th International Costume Congress、2012年8月22日、台湾・高雄市

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
東京理科大学
<https://www.tus.ac.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 酉子 (KOBAYASHI, Yuko)
東京理科大学工学部教養・教授
研究者番号：60277283

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：